

平成21年度西海ブロック水産業関係研究開発推進会議
地域増養殖研究部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1. 開催日時・場所 日時：平成21年11月11日（水） 9:30～12:30
場所：西海区水産研究所 大会議室
2. 出席機関及び人数 8機関 42名
3. 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	西海区水産研究所海区水産業研究部長が開会を宣言した。
2. 挨拶	西海区水産研究所長から、地域水産業への貢献を目指して、増養殖研究を通じた各県試験研究機関と西海区水産研究所との連携と協力が重要である旨の挨拶があった。
3. 座長選出	西海区水産研究所海区水産業研究部有明海・八代海漁場環境研究センター長を座長に選出した。
4. 議事	
1) 研究開発の実施状況	<p>各機関から、資料に基づいて最近の情勢や研究開発トピックスについての報告があった。</p> <p>山口県から、アカウニが前年に比べて激減し、バフンウニも漁獲が減少していること、保全活動支援事業で藻場のモニタリングを行っていること等について報告があった。</p> <p>福岡県から、エチゼンクラゲが散見されたこと、イカ釣りが不漁であることやマアジ主体のまき網漁も漁獲量が少ないことについて報告があった。</p> <p>佐賀県から、エチゼンクラゲが出現して漁業被害があったこと、植食性魚類（アイゴ）による磯焼け対策についての調査を実施していること等について報告があった。</p> <p>長崎県から、長崎県栽培公社と民間会社で研究会をつくり、行政の支援も得てマハタの養殖技術の開発に取り組んでいるとの報告があった。</p> <p>熊本県から、小型ブリの増加、シイラの不漁、イサキの減少傾向について報告があった。また、マダイとヒラメの放流魚の混獲率をホームページで公表しているが、マダイの混獲率がここ1-2年下が</p>

<p>2) 研究成果情報の審議</p> <p>3) 研究会等報告</p> <p>①水温変動沿岸資源影響研究会</p> <p>②亜熱帯ナマコの持続的な利用加工研究会</p> <p>4) 研究開発ニーズ等について</p> <p>①平成 20 年度研究開発ニーズへの対応結果</p>	<p>っているとの説明があり、その要因についての質疑が行われた。</p> <p>鹿児島県から、「春藻場」の形成状況が悪かったこと、ウルメイワシの好漁、水産高校の協力による藻場回復例についての報告があった。</p> <p>当所から、研究基盤強化費による「植食性魚類の採食圧軽減技術開発に向けた基礎的検討」を開始したこと、九州・山口ブロック水産試験場長会との共催で藻場の機能評価に関するシンポジウムを開催したこと等を報告した。</p> <p>石垣支所長が座長を務め、議事を進行した。本年度より各研究部会において研究成果情報を審議・承認することを確認した後、各県及び当所より提出された「佐賀県玄海地区から放流したトラフグ種苗の放流効果」、「サバヒ一種苗生産技術開発」、「ハタ類養殖のマダイリドウイルス病対策」、「シロクラベラの生き残り戦略」、「コウライアカシタビラメの稚魚 2,500 尾の生産に成功」の 5 つの研究成果情報（案）について審議を行い、それぞれ指摘された加筆・修正を行うことで本年度の研究成果情報とすることが承認された。</p> <p>沿岸資源研究室長より、7 月 31 日に開催された同研究会の概要として、九州沿岸域における藻場研究の現状と展望に関する話題提供や新たな事業を目指した課題の検討等を行った旨の報告があった。</p> <p>石垣支所長より、同研究会の活動の経過報告として、シカクナマコの持続的な利用を目的に八重山地区水産振興協議会・八重山漁協青年部・八重山農林水産振興センターと共同して、分布調査や加工試験等に取り組んでいるとの説明があった。</p> <p>海区水産業研究部長より、平成 20 年度提案の「アサリの増殖対策」についてはアサリ資源全国協議会や特産二枚貝増産研究会のなかで情報交換等を行ったこと、「ハマグリを増殖対策」については上記研究会の中で情報交換していること等を説明し、対応結果について了承を得た。また、これらの提案事項については、対応方針に基づき、引き続き関係機関が連携協力して取り組むことを確認した。</p>
--	---

②平成 21 年度研究開発ニーズへの取り組み方針	<p>新規の研究開発ニーズとして、佐賀県玄海水産振興センターから「地球温暖化の指標となる水産生物についての研究」が提案され、研究内容等についての説明があった。海区水産業研究部長より、本課題に対する取り組み方針として、「水産庁事業でのアンケート調査や多様性指標事業等の成果を参照しつつ、水温変動沿岸資源影響研究会等で知見の集約や情報交換に取り組む。」ことを提案し、了承を得た。また、熊本県水産研究センターから「重要甲殻類の資源の減少対策に関する研究」が提案され、研究内容等についての説明があった。海区水産業研究部長より、本課題に対する取り組み方針として、「関連事業等を通して、資源の減少要因の検討や課題の整理に取り組む。」ことを提案し、了承を得た。</p>
③新規研究会の提案について	<p>新規研究会の立ち上げについての提案はなかった。</p>
5) その他	<p>浅海増養殖研究科長より、報告書(案)に基づき、7月28日に開催された平成21年度全国ノリ研究会において、平成20年度ノリ漁期の作柄状況や輸入動向、ノリの流通及び価格形成に関わる問題等について情報交換や研究交流を行ったことを報告した。</p>
5. その他	<p>西海区水産研究所所長より、有明海漁業振興技術開発事業における関係機関の連携・協力についてのお願い、ならびに水産高校生による研究発表会についての情報提供があった。</p>
6. 閉会	<p>西海区水産研究所海区水産業研究部長が閉会を宣言した。</p>